

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かな子どもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第15号-2 R2. 2. 28

能勢ささゆり学園 教育委員会先進校視察研修 その2 (令和2年1月22日(水))

前号に引き続き、「能勢ささゆり学園」の視察内容をご紹介します。

《学校紹介—能勢ささゆり学園》

能勢小学校は能勢町立岐尼小学校、能勢町立久佐々小学校、能勢町立田尻小学校、能勢町立歌垣小学校、能勢町立東郷小学校が統合された。

再編計画が決められた当時は能勢町立天王小学校も含まれていた。能勢中学校は、能勢町立東中学校、能勢町立西中学校が統合された。新設学校の名称は公募され、小学校は能勢町立能勢小学校、中学校は能勢町立能勢中学校と決められた。また、小中一貫教育校として、町花である「ささゆり」から能勢ささゆり学園と愛称がつけられた。



メモリアルホールにある
児童生徒の作品



児童生徒が本を手にと
って見なくなる図書館

(感想抜粋— 岸本教育委員)

・コミュニティ・スクール導入について
教員が最初に持っていた不安感は、「お
得感が実感できる」取組みのなかで少し
ずつ払拭できたというお話は、とても参
考になった。地域が学校を支えてくれ
ていることを実感できることが大切だと思
う。

・校内に配慮が必要な児童への教室があ
ったが、校内にあることの効果を聞いた
かった。不登校の子どもたちにとって、
学校に行くことに抵抗感や不安感がない
のだろうか。それとも、工夫の仕方によ
っては再登校に結びつきやすいのだろう
かなどについて、機会があれば教えてほ
しい。

(感想抜粋— 松山教頭)

コミュニティ・スクールが設置されてよ
かった点として、地域ボランティアに支援
を依頼しやすくなったということが挙げ
られた。4月に学校や教職員から受けた
支援の希望が募られ、支援ボランティアの
募集、依頼が組織的に行われるように
なった。支援が多数、複雑多岐になると
その調整は大きな負担になるが、そこを
それぞれの部にまとめ役がいて組織的に
支援いただけているという。地域の方
にとって、学校づくりに参加するという
思いをより気軽に表現しやすいのでは
ないかと思った。



充実した機器を整えた情報センター

(感想抜粋— PTA 会長 南様)

・コミュニティ・スクールの組織構成が
思ったより大きかったです。能勢町では
開校が先でしたが豊能町では、早めに
準備されるようですね。役割としても
大きな枠組みで取り組んで行けると
良いと思います。

・子供たちへのより良い教育環境を整
備するためにも、教職員の皆様の負
担を減らすだけでなく、現場の先生
たちの心身面でのケアや保護者との
協議補助など、コミュニティ・スク
ールにそんな役割も持たせられたら
良いですね。



多目的に活用されている ランチルーム